

お店



OMISE de  
KODOMO  
SHOKUDO

ごども食堂

スタートブック

あなたのお店を

子どもたちの未来に

つなげてみませんか？

# 目次

こども食堂とは .....	03
はじめに .....	04
飲食店が運営するこども食堂ならではの強み .....	05
こども食堂を立ち上げる際に 参考にしていきたい8つのポイント	
① “想い”・目的の具現化 .....	06
② 利用対象 .....	10
③ 開催パターン .....	11
④ 開催時間 .....	14
⑤ 価格設定 .....	14
⑥ 運営スタッフ .....	15
⑦ 告知方法 .....	16
⑧ 地域との関係づくり .....	17
無理なく続けていくために	
① 寄付の仕組み .....	19
② 補助金、助成金の活用 .....	21
お役立ち情報 .....	22

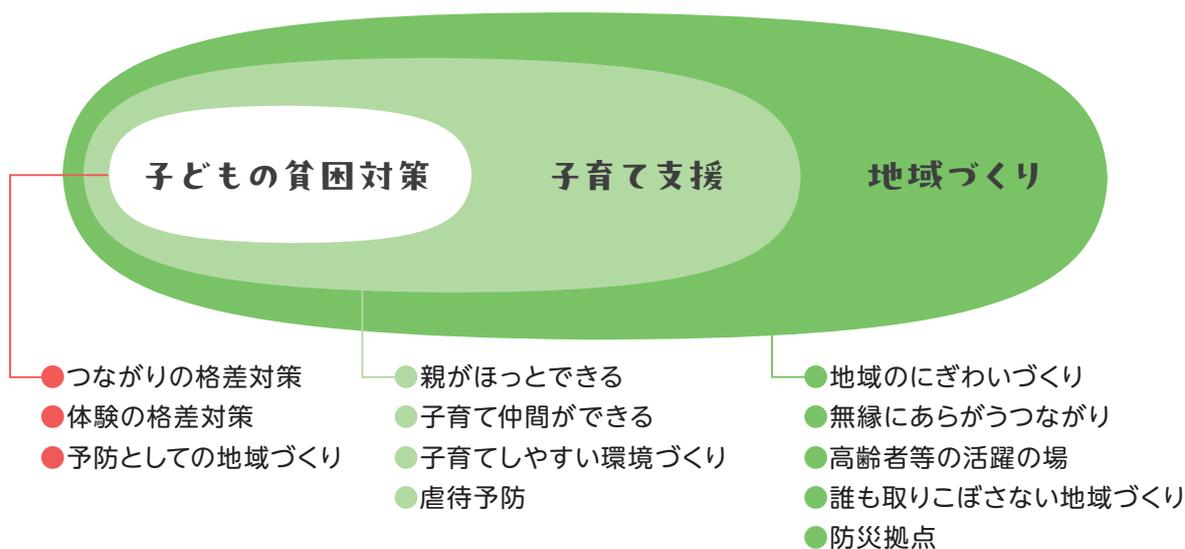
# こども食堂とは

こども食堂は、子どもが一人でも行ける無料または低額の食堂です。各地で自発的に運営され、多くは子どもを中心に幅広い世代の人たちが食を通じて交流する「みんなの居場所」となっています。地域のにぎわいづくりや高齢者の生きがいがづくり、孤独孤立や貧困などの課題の改善にも寄与しています。その数は全国の公立中学校数を超える10,000カ所以上にまで増えました。

(参考：全国の小学校は約2万校、中学校は約1万校、児童館は約4,000カ所)  
文部科学省「令和6年度学校基本調査(確定値)」

## こども食堂の多様な価値

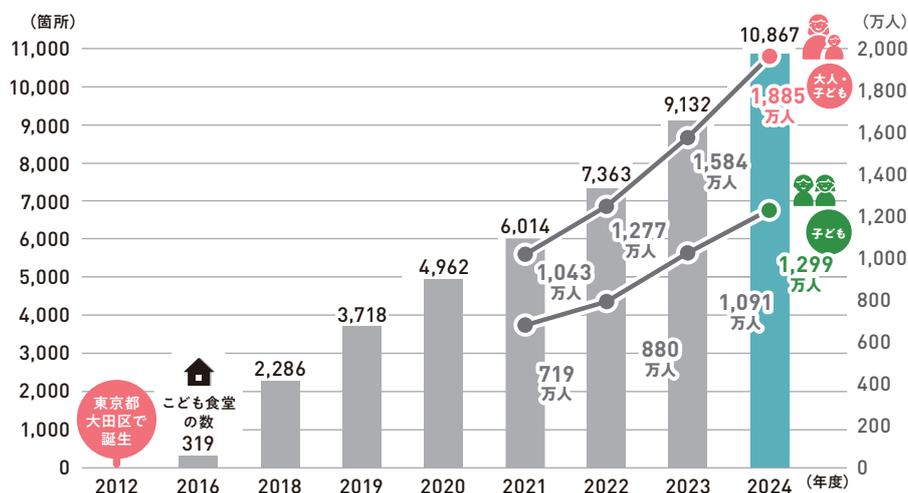
こども食堂には**多様な価値**があり、  
**課題を「包括的に予防」**するポテンシャルがある



## こども食堂の数と参加者数の推移

- 箇所数
- 年間延べ参加人数(推計)
- 子どものみの年間延べ参加人数(推計)

※2018年度以降は認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ、および地域ネットワーク団体調べ、2016年は朝日新聞調べ



# はじめに

こども食堂は47都道府県に広がり、全国で10,000カ所以上にまで増加し、自発的で多様な市民活動として成長を続けています。一方で、歩いて行ける範囲にこども食堂が一つもない地域も、まだ数多く残されています。

子どもたちに「安心できる食」と「居場所」を届けたいと願っても、場所や設備をゼロから整えるのは大きな負担です。その点、飲食店はすでに最適な資源を備えています。厨房や客席はもちろん、日々培われた「食を届ける知恵と技術」は、かけがえない力となります。

さらに、飲食店がこども食堂を担うことには、次のような可能性があります。



# 飲食店が運営する こども食堂ならではの強み

飲食店が運営するこども食堂は、単なる食事提供にとどまりません。調理の過程や食材の魅力を伝えることで、子どもたちの興味や学びを育み、未来へのきっかけをつくることができます。あなたのお店から、地域と子どもたちの未来を育てる一歩をはじめてみませんか。

## ／ 飲食店が運営するこども食堂の強み ／



### プロ仕様の 設備と環境

本格的な厨房設備、調理器具、食器類が既に整っており、効率的で安全な食事提供が可能です。一般的なこども食堂では調理設備の確保が課題となることが多い中、この点は大きな強みです。



### 食の循環への 理解促進

食材の選定から調理までのプロセスを通じて、生産者への感謝や食の大切さを学ぶ機会を提供できます。食材ロス削減への意識も育めます。



### 料理人の味と おいしさ

料理人の技術と経験により、栄養バランスを考慮しながらも「おいしい」食事を提供できます。子どもたちの食への関心を高め、「食べる楽しさ」を伝えることができます。



### 地域の 応援団

既存の顧客や地域住民が理解者・支援者として温かく見守る環境があります。寄付や食材提供、ボランティア参加など、様々な形での支援を受けやすい基盤が整っています。



### 実践的な 食育効果

プロの調理現場を見学し、実際に料理を体験することで、子どもたちの食への興味と理解を深めることができます。職業体験の機会も提供できます。



### 高い 衛生管理水準

飲食店として培った食品衛生管理の知識と経験により、高い水準の衛生管理を実践できます。食中毒などのリスクを最小限に抑え、安心・安全な食環境を提供できます。

# こども食堂を立ちあげる際に 参考にしていただきたい⑧つのポイント

こども食堂が大事にしていることを参考にしながら、これまで多くのこども食堂の皆さんからお聞きしたことを踏まえて、飲食店の皆さんが活動されるにあたってご参考になればと8つのポイントをまとめてみました。ご承知の通り、こども食堂のあり方は誰かが統一して決めているものではありません。あくまでご参考としていただければ幸いです。



私たちが大事にしていること | 認定NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ  
<https://musubie.org/care-about>

1

## " 思い"・目的の具現化

こども食堂を始める最も重要な要素は「なぜやるのか」という思い・目的の明確化です。この目的が運営の軸となり、困難な時の支えにもなります。

### 設定する際の視点例

社会課題への取り組み：孤食、居場所不足、子どもの貧困など

地域貢献：地域コミュニティの活性化、多世代交流の促進

食育の推進：食の大切さ、料理の楽しさを伝える

企業としての社会的責任：CSR活動としての位置づけ

など

### 思い・目的の具体化、見える化

思い・目的は抽象的なままでは実践に移せません。以下のように具体化し、関係者間で共有しましょう。

- 1 達成したい状態の明文化（「地域の子どもたちが笑顔で食事できる場所」など）
- 2 数値目標の設定（月〇回開催、年間〇人の子どもに提供など）
- 3 思い・目的をわかりやすく表現したスローガンの作成
- 4 スタッフ全員での思い・目的の共有と理解促進

## 目的設定の実例

### A 店の場合

地域の全ての子どもが、家族のようなあたたかさの中で、おいしい手作り料理を食べられる居場所をつくる

### B 店の場合

料理人として、子どもたちに本当においしい食事と食の楽しさを伝え、健やかな成長を支援する

### C 店の場合

季節食材のおいしさや料理人との交流を通じて、食に対する興味関心を喚起する

## コンセプト

コンセプトは目的を具現化したもので、こども食堂の個性や特色を表現します。他のこども食堂との違いを明確にすることにもなります。

### 飲食店ならではのコンセプト例

- 料理人の味を子どもたちに ..... レストラン品質の料理提供
- みんなでつくる、みんなで食べる ..... 調理体験重視型
- 世界の料理で国際交流 ..... 多国籍料理店の特色を活かした文化交流
- 地産地消で地域を知る ..... 地元食材を使った食育重視型
- 家族のようなあたたかい食卓 ..... アットホームな雰囲気重視型

### コンセプト設計の要素

- 料理・メニュー ..... どのような食事を提供するか
- 空間・雰囲気 ..... どのような場の雰囲気をつくるか
- プログラム ..... 食事以外にどのような活動をするか
- 運営スタイル ..... スタッフと利用者の関係性をどうするか

## 事例紹介

### 事例 ① みなば食堂

赤ちゃんからお年寄り、障がい者の方や車いすの方でもみんなが笑顔で過ごせる居場所



店名 > やよいカフェ & Bar (予約制)

業態 カフェ/バー 場所 東京都板橋区 頻度 月2回

人数 50~90人/回 開催パターン 定期開催型

「みなば食堂」は、赤ちゃんからお年寄り、障がい者の方や車いすの方でもみんなが笑顔で過ごせる居場所づくりをしたいという思いからご友人2人で始めた食堂です。みなばはアイヌ語で「大勢が笑う」という意味。訪れる皆さんに笑顔になってほしいという願いを込めています。第1、3水曜日の月2回の誰でも無料で利用できる食堂開催の他、毎週水曜日のお弁当提供やミニフードバンク、学習支援など活動は多岐にわたります。必要としている方へ支援が届くように社会福祉協議会を始めとする板橋区内の様々な団体と連携しています。地域イベントにも積極的に参加し、活動を知ってもらうきっかけを作っています。

#会食 #お弁当 #フードパントリー #学習支援

### 事例 ② みさと子ども食堂

駄菓子屋との併設で、地域の子どもの居場所を目指した取り組みを長年続けています



店名 > みさと屋 野菜食堂

業態 食堂 場所 東京都調布市 頻度 毎日(日曜、祝日を除く)

人数 500人/年(駄菓子屋利用者は17,000人/年)

開催パターン 常設型

「みさと子ども食堂」は、地域に根ざして30年以上営業してきた食堂が運営しているこども食堂です。親の帰りが遅く、一人で食事をとる子どもたちに、栄養たっぷりの温かいごはんのみそ汁をたべよう、という気持ちで毎日活動されています。料金は1食300円で、日替わりのおかずは野菜をふんだんに使ったバランスの良い献立です。併設している駄菓子屋では、120円の引換券を使って自分で計算したお菓子が選べます。様々な方法で、子どもたちにとっての場を提供し続ける地域の居場所です。

#栄養バランス #駄菓子屋 #毎日開催

### 事例 ③ 鶏眞子ども食堂

毎回のご飯作りの体験が、子どもたちに食育と笑顔を与える場所



店名 > 鶏眞

業態 居酒屋 場所 東京都国分寺市 頻度 月1回

人数 100~140人/回 開催パターン 定期開催型

「鶏眞子ども食堂」は、地域の子どもたちに食の大切さを伝えることを目的に、月に1度開催される規模と熱気の凄い食育イベントです。毎回100人以上が参加し、子どもたちによる餃子づくりや、うどん打ちなど、プロの食育の先生による学びや、ボランティアさんが周りでサポートしながら子ども自身が料理に挑戦する体験を通じて、楽しみながら食への理解を深められる場を提供しています。親子で一緒に参加できるため、大人も子どもも食の魅力を再発見できる機会となっています。立ち上げたオーナーは、地域全体で同じような飲食店こども食堂を増やして、毎日地域のどこかでこども食堂が開催されているような世界を目指しています。

#食育 #会場は店舗全体 #地域活性化

## 事例紹介

事例

### 4 大黒屋食堂のこども食堂

地元産の信頼できる食材にこだわり  
手作りの本物の味を子どもに提供



店名 > 大黒屋こども食堂

業態 食堂 場所 埼玉県川越市 頻度 月1回

人数 20人/回 開催パターン 定期開催型

環境イベントのワークショップがきっかけとなり、2017年12月にスタート。近隣の農家や福祉雇用企業、お寺や個人からの寄付による資金や食材を活かしながら「安心安全な食材や調味料」を使うという食堂のポリシーに沿って、子どもたちに手づくりの食事を提供されています。食材を提供してくださった方たちに、感謝の言葉を添えた絵を描いて贈るなど、社会とのつながりを子どもたちに実感してもらう取り組みもされています。スタート当時は未就学児だった子が中学生になり、レギュラーの小学生は、お手伝いもしてくれるようになり、また、高校生や地域企業のボランティアが参加してくれるなど、コミュニティの輪も広がっています。

#地域づくり #食材にこだわり

事例

### 5 子ども食堂ぬまフェス!!

毎回のご飯作りの体験が、  
子どもたちに食育と笑顔を与える場所



店名 > ぬまフェス!!

業態 カフェ 場所 東京都品川区 頻度 週1回

人数 20人~60人/回 開催パターン テイクアウト型

「子ども食堂ぬまフェス!!」は、子どもが多い家庭の母親が抱える物理的・精神的な育児負担を少しでも軽くしたいという思いから始まりました。運営者の柿沼さん自身、シングルマザーとして仕事と子育てに追われた経験があり、「忙しいお母さんがひと息つける時間をつくりたい」と願って活動しています。毎週火曜の夜には、自身の飲食店を開放し、栄養バランスのとれた温かい食事を子ども300円、大人600円で提供。単なる食事支援ではなく、「ごはんができて安心感」「今日は作らなくていい」という余白を届けることで、親の心を軽くし、家族に笑顔を増やすことを大切にしています。

#育児負担軽減 #栄養バランス

## 2

## 参加対象

参加対象者は目的に応じた設定となりますが、実施していく中で変化していく可能性もあります。

## 対象者

こども食堂への参加者は、地域の状況や運営者の思いによって多様です。

生活困窮家庭やひとり親家庭などに対象を限定して支援を届ける形もあれば、対象を限定せず、すべての子どもや地域住民に開かれた形で運営する食堂もあります。また、子どものみを対象とする場合もあれば、親子一緒、さらにはお年寄りも含めて地域全体で交流できる場として開かれていることもあります。

対象を明確に限定することで支援が届きやすくなる一方、周囲の目を気にしてしまい、かえって参加しにくくなる場合もあります。それ故に、年齢やご家庭の状況など条件を設けずに「どなたでもどうぞ」と誰でも参加できる場所も少なくありません。

※「むすびえの第9回こども食堂の現状&困りごとアンケート2024」の結果は、対象を限定しないこども食堂の割合は71.7%です。

対象範囲	メリット	注意点
子どものみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども向けメニューに特化可能</li> <li>●子ども同士の交流促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓保護者の不安への配慮が必要</li> <li>✓送迎の調整</li> </ul>
親子で利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家族での利用による安心感</li> <li>●保護者同士の交流促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓席数の確保</li> <li>✓多様な年齢層への対応</li> </ul>
地域住民全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多世代交流の実現</li> <li>●地域コミュニティの形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓運営の複雑化</li> <li>✓多様な年齢層への対応</li> </ul>

## 年齢層の設定

- 未就学児 …………… 保護者同伴が前提、乳幼児用の食器・カトラリーなどの配慮
- 小学生 …………… こども食堂の中核的利用者、一人での利用も可能
- 中高生 …………… 部活帰りの利用、学習支援のニーズも高い
- 大学生・若者 …………… ボランティアとしての参加も期待できる

## 3

## 開催パターン

開催形態は大きく右の5つがあります。これらの形態を組み合わせるケースも多いです。飲食店の通常業務との兼ね合いを考慮し、無理のない開催パターンを選択することが継続的に運営するためのポイントです。



常設型



定期開催型



クーポン型



テイクアウト型



デリバリー型



## 常設型

飲食店の通常営業中に、子どもが食事できる仕組みです。日常的に子どもたちへ温かい食事を提供するコンセプトにマッチします。子ども達や地域の人々が気軽に集える居場所となりやすいのが特徴です。

## メリット

営業スペースとスタッフを活用することで通常営業とほぼ同じオペレーションで安定した運営が可能となります。

## 注意点

通常営業との線引きをするために、対象者や利用ルールを定める必要があります。

事例

## 6 スマイルこども食堂

毎日の食事と自分で握るおにぎりで  
元気になれる場所



店名 ▶ 府中餃子バル あわ屋

業態 バル 場所 東京都府中市 頻度 毎日  
人数 10人/回 開催パターン 常設型

「府中餃子バル あわ屋」では、飲食店併設型のこども食堂を毎日開催しています。子どもには無料、大人には500円で、栄養バランスを考えた献立を提供し、おにぎり作りや季節のイベントなど食育体験も充実させ、子どもたちに食の楽しさと社会体験を届けています。飲食店の食材やスタッフを活用することで、持続可能な運営を実現し、地域の交流や飲食業の価値向上にもつながっています。オーナーは「単に食事を提供する場ではなく、慈善活動にも力を入れていることを発信することで、飲食業界全体の価値を高めたい」と考えており、こども食堂の更なる可能性を感じられる場所です。

#毎日開催 #おにぎり #飲食業界全体の価値向上

事例

## 7 ソラノシタ夢食堂

子どもたちの未来へつなぐ  
大人のボランティア



店名 ▶ 足立区役所 食堂ソラノシタ『夢食堂』

業態 食堂 場所 東京都足立区 頻度 毎日  
人数 20人/回 開催パターン 常設型

「子どもたちがご飯を食べられる場所」「子ども同士のコミュニティの場所」「ご飯を食べながら笑顔になれる場所」このような想いで2021年6月より開始されています。夢食堂は多くの方のご協力で食事を必要としている子どもたちに1食を提供されています。具体的には1人200円の寄付で「夢チケット」を発行し、その夢チケットがお子さまの1食分となっています。また、定食ご注文ごとに10円を寄付としてお預かりし、20食分でお子さま1人1食分として提供されています。利用したお子さんや親御さんから御礼のお手紙をいただくことや、多くの子どもとの会話等がスタッフ皆さんのやりがいにつながっているとのことでした。

#安全安心 #地域コミュニティ #公共施設



## 定期開催型

週に数回や月に数回など、決まった日程で店舗を開放し、子どもや地域住民に食事を提供する形式です。調理のワークショップや季節行事などのイベントを組み合わせやすいのが特徴です。

### メリット

店休日やアイドルタイムに組み込むことで、通常営業に影響を与えず開催することが可能です。

### 注意点

参加希望者の定員超過が起きやすく、予約制や対象者の限定などのルール運用が必要になります。

事例

## 8 こども食堂 shu

誰が来ても大丈夫  
子どもだけでも、大人と一緒に



店名 ▶ 日本酒処 shu

業態 居酒屋 場所 東京都大田区 頻度 月1回  
人数 40人/回 開催パターン 定期開催型

学習塾や飲食店等を経営されている中、飲食店を活用して日々頑張っている子どもたちに少しでもホッとできる時間を提供したい、保護者にも月に1度1食くらいはゆっくりしてほしい、高齢者も楽しんでほしい、「誰でもどうぞ」という想いで2023年8月より活動をスタートしました。メニューはお店にある食材を活用し、時には少しグレードアップした食事を提供することで利用者に喜ばれています。行政の補助金も有効活用され、仕組みやあるべき姿等を日々模索されています。多くの出会いがやりがいになり、他エリアでも広げていきたいという想いを抱かれています。

#定期開催 #ランチ #無理のない社会貢献活動



## クーポン型

地域の子どもたちに配布されたクーポンを使って、通常営業時に店舗で食事を無料または低価格で提供する仕組みです。子どもは特別な日程に縛られず、好きな時間に安心して利用でき、自然に一般客と同じ環境で食事を楽しめます。

### メリット

通常業務の延長で取り組めるため負担が少なく、寄付と組み合わせることで継続性を高めやすくなります。

### 注意点

クーポンの配布先に対象者が限定されます。また、管理方法や利用ルールを定める必要があります。

事例

## 9 平井料理システム

特別な日に素敵な外食を  
外食企業と地域が連携した取り組み



業態 レストラン・和食・居酒屋 場所 香川県高松市  
開催パターン クーポン型

「子どもたちに美味しい食事を味わってほしい!」という思いから出発したこのプロジェクトでは、親子で外食を楽しむ特別な体験を提供するため、ひとり親世帯を対象に「ハレの日お食事券」を子どもの誕生日に合わせて発行し、2024年10月から約半年間で延べ100世帯以上の方にお届けしています。

チケット制を採用することで、お店側も日々の営業と並行してオペレーションを変えることなく、利用者側も好きなタイミングで気軽に利用することができます。また支援団体経由でのチケット配布が、見守りやお祝いの言葉を届ける機会にもなっています。

#クーポン #ひとり親家庭支援 #見守り



## テイクアウト型

子どもや家庭に向けてお弁当や惣菜を持ち帰りできる形で提供する仕組みです。仕事で忙しい保護者や外食が難しい家庭にも利用しやすいのが特徴です。

### メリット

短時間での受け渡しが可能で、店内スペースの制約を受けにくくなります。

### 注意点

対面での交流が少なくなるため、つながりを感じられる工夫が重要になります。また、保冷・保温管理、消費期限表示など、衛生面の対策が必須です。

## 事例 10 つだぬまや子ども食堂

地域ネットワーク団体や  
地域のボランティアと一緒に



店名 ▶ つだぬまや

業態 蕎麦屋 場所 千葉県船橋市 頻度 月1回

人数 100人/回 開催パターン テイクアウト型

学生アルバイトさんが子ども食堂の話をしてくれたことがきっかけで開始され約6年になります。開始時に地域ネットワーク団体に相談し、情報提供や物資支援等をいただいたことは心強かったとのこと。地域の方から様々なご支援をいただきながら長く続けられていること、あたたかい心に毎回感謝の気持ちでいっぱいになりますとお話されていました。店主の方がその時の材料をみながらメニューを工夫し、地域のボランティアさんと一緒にお弁当100個をご用意されています。絵本の読み聞かせ等のイベントの復活も検討され、月に一度の家族団らんの場所と時間にして欲しいとのこと。

#長期継続 #地域の協力



## デリバリー型

店舗で調理した食事を子どものいる家庭や地域の拠点へ直接届ける仕組みです。外出が難しい子どもや家庭でも安心して利用でき、孤立しがちな家庭への見守りや声かけの機会にもつながります。

### メリット

店外での受け渡しが前提のため、スペースの制約を受けにくくなります。

### 注意点

配送手段（スタッフ・車両・保冷容器）の確保が必要になります。また、保冷・保温管理、消費期限表示など、衛生面の対策が必須です。

## 事例 11 ロケットチキン子ども食堂

地域との連携で  
子どもたちを応援



店名 ▶ ROCKET CHICKEN (ロケットチキン)

業態 フライドチキン専門店・キッチンカー

場所 神奈川県高座郡寒川町 頻度 不定期

開催パターン デリバリー型

「子ども・若者に優しくない社会に未来はあるのか?」という問いをきっかけに始まったロケットチキン子ども食堂では、唐揚げ専門店のキッチンカーを活用した子ども食堂の定期開催や職場体験なども積極的に行われています。

また、地域内の他の子ども食堂と連携もしており、食事のトッピングとしてチキンを提供する形で子ども食堂をサポートすることで、店舗以外の場所でも子ども達を応援する取り組みにつながっています。

#キッチンカー #地域の子ども食堂との連携

## 4

## 開催時間

開催時間は、営業時間や繁忙の時間帯との兼ね合いとなります。  
主な設定時間は以下の4つです。

時間帯	メリット	注意点
朝 (7:00～8:30)	共働き・ひとり親世帯など、保護者の出勤前に子どもを送り出せる安心感があり、「朝の習慣づくり」「生活リズムの安定」に寄与する。	早朝の運営のため、スタッフやボランティアの確保が難しい。提供時間が限られており、調理や提供のスピードが求められる。
昼 (11:30～14:00)	幼児・未就学児や保護者同伴の利用者に向く。保護者支援や地域交流型イベントとしての活用に適する。	ランチ営業との連携、混雑対策が必要。
放課後～夕方 (16:00～18:00)	学校帰りの子どもが立ち寄りやすい時間帯。夕食代わりとしての利用が多く、家庭の食支援にも直結。	ディナー営業前の準備時間を利用できるとスムーズ。
夜間 (18:00～20:00)	夕食を取れない子どもへの直接的な食支援にもつながる。	通常営業と重なるため、専用スタッフ確保や店内スペースの工夫が必要。利用者の安全帰宅のため、終了時刻の配慮や帰宅支援も検討。

## 5

## 価格設定

子どもが「安心して食べられる場」であることを大切にしつつ、家庭の経済的な負担の軽減と、運営の持続性も確保する適切な価格設定が重要なポイントです。

※R6年度の神奈川県調査では、子ども無料、大人200円～500円の組み合わせが、全体の42%と最も多くなっています。

料金パターン	内容・特徴
子ども・大人とも無料	誰でも無料で利用可能。利用者のハードルが最も低く参加しやすい。
子ども：無料／大人：有料	子どもは無料、大人（保護者）は100～500円程度。家族での利用に対応。
子ども：100～300円 大人：100～500円	負担の少ない価格設定で、寄付制や実費負担と組み合わせる。

## 6

## 運営スタッフ

安全で質の高い運営のために、自店にとって適切なスタッフ体制を構築することが重要です。

## スタッフ構成の考え方

スタッフ構成	内容・特徴
店舗スタッフ中心型	既存の店舗スタッフが中心となって運営。労働時間、体調など管理が必要。
ボランティア活用型	地域ボランティアと協働で運営。高校生、大学生がボランティア学習として参加を希望するケースも。調理、配膳のオペレーション品質が下がる可能性あり。
専門スタッフ型	高齢者、主婦、学生などパートタイムでこども食堂専用スタッフを雇用。地域とのつながりづくりとしても有用。

## ボランティア募集と管理

ボランティアを活用する場合は、以下の点に注意が必要です。

- **募集方法** …… 地域掲示板、SNS、口コミ、ボランティアセンター連携
- **面談・選考** …… 動機確認、スキル把握、継続意思の確認
- **研修** …… 食品衛生、子どもとの接し方、緊急時対応

## ボランティア保険について

ボランティア活動中の事故に備え、ボランティア保険への加入を推奨します。社会福祉協議会で手続き可能で、年額350円～500円程度で加入できます。傷害保険と賠償責任保険がセットになっており、ボランティア・利用者双方の安心につながります。

## 7

## 告知方法

対象としている子どもたちや家庭に確実に情報が届くよう、多様な告知手段を組み合わせます。

## 告知チャネルの整理

告知方法	効果的な対象	メリット	注意点
社会福祉協議会からの広報	地域住民全般(特に困窮世帯、ひとり親世帯、高齢者)	日頃の関係構築による信頼性	運営体制の信頼性担保
自治体広報	地域住民全般	公的な信頼性	定期掲載が多く時間がかかる
学校連携	小中学生とその家族	確実な情報伝達	開催実績や学校との関係構築が必要
SNS	若い世代の保護者	リアルタイムな情報発信、リピーター確保	フォロワー獲得が課題
店頭告知	地域住民全般	視覚的訴求力	
チラシ・ポスター	地域住民全般	地域内の協力体制づくりに寄与	設置場所の確保が必要

## 8

## 地域との関係づくり

こども食堂が地域に根付いていくためには、多様なステークホルダーとの関係構築が重要です。そのために、地域のこども食堂同士が情報共有できる地域ネットワーク団体と連携することも有効です。

## 連携を検討したい機関・団体

- 1 行政機関 …………… 社会福祉協議会、市町村子ども担当課
- 2 教育機関 …………… 小中学校、高等学校、PTA
- 3 福祉機関 …………… 児童館、学童クラブ、子育て支援センター
- 4 地域団体 …………… 地域ネットワーク団体(※次ページ参照)、  
自治会、町内会、民生委員・児童委員
- 5 事業者 …………… スーパー、農家、同業他社
- 6 NPO・ボランティア団体 …… 子育て支援団体、食育団体

## 関係構築のステップ

- 挨拶回り …………… こども食堂開設の挨拶と協力依頼
- 会議参加 …………… 地域の子育て関連会議への参加
- 情報交換 …………… 定期的な情報共有と課題の協議
- 協働事業 …………… 合同イベントの企画・実施
- 相互支援 …………… 互いの活動への協力と支援

事例

## 12 ちいき食堂 めさみーる+

多様な支援と多世代の交流拠点にもなり得る  
温かな場所



店名 > メサ・グランデ

業態 カフェ 場所 神奈川県川崎市 頻度 月1回  
人数 70名/回 開催パターン 定期開催型

ちいき食堂 めさみーる+(プラス)は、コミュニティカフェとして運営している場所で、月に一度、ボランティアさんが作るカレーライスをみんなで囲む地域食堂です。障害を持っている方がお仕事に取り組む「就労継続支援B型事業所」の場所でもあります。地域ネットワーク団体(次ページ参照)や近隣の方達の理解と協力も受けながら、ご飯をみんなで作り、みんなで食べる場所として、子どもや保護者、一人暮らしの高齢者など誰でも参加できる居場所。食を通じて自然なつながりが生まれ、地域の見守りや学び、暮らしを支える場として運営されています。

#障害者就労支援 #みんなの居場所

## 地域ネットワーク団体について

「地域ネットワーク団体」とは、地域内の複数のこども食堂や支援団体がつながり、情報共有や協力体制を築く仕組みです。各食堂が単独で活動するのではなく、地域ネットワーク団体として連携することで、運営の安定性や持続性を高めることができます。多くの地域では、市区町村や社会福祉協議会と連携しながらネットワーク会議や交流会が開かれています。



地域ネットワーク団体全国マップ（むすびえ作成）  
<https://musubie.org/activity/regional-network>

## 支援内容の一例

※各地域ネットワーク団体により支援内容は異なります。予めご了承ください。

### ① 食材・物資の共有

余った食材や寄付品を地域ネットワーク団体を通じて他のこども食堂と融通し合うことができ、食品ロス削減にもつながります。

### ② 補助金・助成金情報の入手

地域ネットワーク団体には自治体・社協・NPOなどが関わるが多く、最新の補助金や助成金情報を得やすくなります。

### ③ ボランティア人材の確保

ボランティア募集や人材紹介を地域ネットワーク団体経由でできるため、スタッフ不足の解消に役立ちます。

### ④ 信頼性の向上

地域ネットワーク団体に参加することで、地域住民や行政からの信頼度が増し、寄付や協賛が集まりやすくなります。

### ⑤ 学びと相談の場

他の食堂の事例やノウハウを共有できるため、運営の質を高めたり課題解決のヒントを得たりすることができます。

# 無理なく続けていくために

1

## 寄付の仕組み

寄付は、こども食堂運営の重要な資金源です。継続的な寄付を得るためには、寄付者との関係構築と透明性のある運営が必要です。

寄付の種類	特徴	寄付集めの方法
現金寄付	<ul style="list-style-type: none"><li>● 用途の自由度が高い</li><li>● 運営費全般に活用可能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>✔ 店舗での募金箱設置</li><li>✔ フードリボンなどの民間の仕組みを活用</li></ul>
寄付付きメニュー	<ul style="list-style-type: none"><li>● お客さまが商品やメニューを選ぶだけで寄付になる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>✔ 売上の一部がこども食堂に使われることを明確に表示する</li></ul>
食材寄付	<ul style="list-style-type: none"><li>● 直接的な食事提供支援</li><li>● 食材費の削減効果</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>✔ 地域ネットワーク団体への登録</li><li>✔ 農家や食品事業者との連携</li><li>✔ フードバンクの活用</li></ul>
物品寄付	<ul style="list-style-type: none"><li>● 調理器具や設備の提供</li><li>● 子ども向け用品の支援</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>✔ 地域住民への呼びかけ</li><li>✔ 企業からの現物提供</li></ul>

## 事例紹介

### 事例 13 浩治朗

多くの試行錯誤を経て、子どもたちの心の拠り所となるこども食堂を毎日実施



店名 > 居酒屋 浩治朗

業態 居酒屋 場所 埼玉県和光市

頻度 毎日17~18時(定休日曜日) 人数 150人/年

開催パターン 常設型

こども食堂浩治朗は、当たり前子どもたちがご飯を食べられる社会を目指して立ち上がっています。通常の営業と並行して運営され、寄付等の支援により持ち出しがない理想に近い状態での運営ができています。そのために、お店自身の魅力を高める努力を続けるなど(ご飯がとにかく美味しい!),多くの試行錯誤を経ています。運営面でも様々な工夫をしており、例えば、毎日同じメニューの提供と参加者自身で作る仕組みを導入し、極力手がかからず、かつ通常営業の範囲内としています。継続性の担保に注力し、リピート参加する子どもが多く、当たり前にご飯を食べに行けるこども食堂です。

#毎日開催 #お店の魅力向上こそ大事 #継続性 #フードリボン

● 寄付募集のポイント ●

- ① 目的の明確化 寄付金の具体的な用途を明示
- ② 成果の可視化 どんな効果があったかを具体的に報告
- ③ 感謝の表現 寄付者との継続的なコミュニケーション
- ④ 透明性の確保 収支報告書の作成と公開
- ⑤ 参加のしやすさ 少額からでも参加できる仕組みづくり

● 寄付管理の実務 ●

- 寄付台帳の作成 ..... 寄付者名、金額、日付、用途を記録
- 領収書の発行 ..... 税務上の適切な処理
- お礼状の送付 ..... 寄付後速やかに感謝の気持ちを伝える
- 店内展示 ..... 参加者の様子などを継続的に店内で展示する

飲食店として受ける寄付は、基本的には収益として計上し、課税対象となります。寄付として受ける際には、取扱い方法について、安全のため税理士に確認してください。

## 2 補助金、助成金の活用

国や地方自治体、企業、NPO団体では、こども食堂運営を支援する様々な助成金、補助金制度があります。これらを有効活用することで、立ち上げ時の負担軽減や運営の安定化を図ることができます。ただし、あくまでも非営利で行うこども食堂の活動への支援に限定されているもの（営業活動に資するものは対象外）がほとんどです。厳しい選考や様々な条件もありますので、募集要項をよく読み、活用を検討ください。

### 主な補助金制度

種類	対象経費	補助額	特徴
企業、NPOの助成金	食材費、光熱費、備品購入費等	5万円～10万円	活動開始、継続支援などに区分
地方自治体の補助金（こども食堂支援）	食材費、光熱費、備品購入費等	年間10万円	地域の実情に応じた制度設計
国の交付金、補助金	設備整備費、運営費	年間100万円程度	食事だけでなく「子どもの居場所」全体を支援する制度が中心

### 補助金申請の流れ

- 1 情報収集 自治体ホームページや担当課への問い合わせ
- 2 申請書類準備 事業計画書、収支計画書、団体資料等
- 3 申請手続き 期限内での書類提出
- 4 審査・面接 書類審査や面接での事業説明
- 5 交付決定 補助金交付決定通知の受領
- 6 事業実施 計画に基づく事業の実施
- 7 実績報告 事業終了後の実績・収支報告

### 社会福祉協議会について

社会福祉協議会（社協）は、各市区町村・都道府県に設置された地域福祉の中核的な団体で、住民、福祉団体、行政などが協力しながら、地域の困りごとの解決や居場所づくりを支援しています。営利目的ではなく公共性の高い活動を行っている「地域福祉のよろず相談所」であり、こども食堂の立ち上げや運営の最も身近な窓口です。立ち上げや運営でわからないことがあったら、まずはお店がある地域の「市区町村社協」に連絡してみることをおすすめします。

**補助金・助成金の情報提供** 民間団体や自治体の補助金、助成金募集情報をまとめて教えてくれる。

**申請の相談窓口** 書類の書き方や必要な実績報告についてアドバイスをもらえる。

**地域ネットワークづくり** 他の子ども支援団体やボランティアをつなげてもらえる。

**独自の助成制度** 市区町村によっては「社協独自の助成金」を設けており、運営費の一部補填も可能。

※地域によって協力内容は異なりますので、各地域社協の窓口にてご確認ください。

# お役立ち情報

## こども食堂立ち上げ・運営ワークシート

<b>想い・目的</b>	地域の活性化/食の大切さを伝える/居場所づくり/子どもの孤食・貧困対策など	
<b>コンセプト</b>	レストラン品質の料理提供、調理体験、多国籍料理での異文化体験、アットホームな家庭料理など	
<b>対象者と利用者数</b>	年齢(子どもと親、高齢者、誰でも等)	<b>運営スタッフ・ボランティア</b>
		受付、調理、配膳、見守りなどの役割と人数
<b>予約の有無/参加者の条件</b>	限定(困窮世帯・ひとり親家庭など)	<b>料金設定</b>
		子ども無料、大人募金500円など
<b>タイムスケジュール</b>		<b>想定運営コスト</b>
<b>周知・集客方法</b>	チラシの作成、SNS、行政配布、学校配布など	<b>申し込み方法</b>
		無料フォーム、SNSの活用など
<b>地域との関係づくり</b>	社会福祉協議会、地域ネットワーク団体、行政、学校などの団体名、連絡先	<b>運営資金確保</b>
		募金箱、寄付付きメニューなど

# お役立ち情報

## 広報チラシ例



## 子ども食堂が大事にしていること

子ども食堂が大事にしていること、これからも大事にしていきたいこと

① 違いを認め合い	多様性
② 「やりたいのは自分」の気持ちで	自発性
③ 分け隔てなく誰にでも	インクルーシブ
④ みんなのために	非営利
⑤ 地域をつなげ、笑顔をつなげる	地域性



子ども食堂運営者、子ども食堂地域ネットワーク団体 有志一同  
認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ  
<https://musubie.org/care-about#anc-2>

## リンク集



### ●厚生労働省の通知

子ども食堂の活動に関する連携・協力の推進及び、子ども食堂の運営上留意すべき事項の周知について  
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000213463.pdf>



### ●ガッコム・むすびえ 子ども食堂マップ

自分の身近なところに子ども食堂があるのか調べたい、と思ったときに調べられるマップです。  
<https://kodomoshokudo.gaccomm.jp/>



### ●地域ネットワーク団体全国MAP

各地で子ども食堂運営者らの情報交換や意見交換、さらにはスキルアップや広報啓発のための「地域ネットワーク団体」が活動しています。  
<https://musubie.org/activity/regional-network>

## Vision

子ども食堂の支援を通じて、  
誰も取りこぼさない社会をつくる。

## Mission

子ども食堂が全国のどこにでもあり、  
みんなが安心して行ける場所となるよう環境を整えます。  
子ども食堂を通じて、多くの人たちが  
未来をつくる社会活動に参加できるようにします。

## Action

私たちは、誰も取りこぼされない社会を日本でつくりたいという思いを持って活動  
しています。各地で子ども食堂を支える地域ネットワーク団体を支援すること、何か  
社会に貢献したいと考えている企業・団体とつながり子ども食堂へ支援を届けること、  
調査・研究をし、啓発をしていくこと。私たちは、3つの軸で、歩んでまいります。



令和7(2025)年11月発行

発行

認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ  
| 飲食店×子ども食堂プロジェクト

スタートブックに関するお問い合わせは  
むすびえホームページのお問い合わせフォームよりお願いいたします。